

『信仰によって義と認められる恵み』

ローマ人への手紙 1章 16～17節

青木 信太郎 牧師

◆ 救いを得させる神の力

パウロはローマのキリスト者たちに宛てたこの手紙の、挨拶文と自己紹介において「神の福音」を強調しました。そしてその次にこの手紙の執筆目的を明らかにしつつ「信仰」を強調しました。この手紙の冒頭で「福音と信仰」を強調した上で、今朝のテキストから本論に入っていくわけです。

【16-17節】「私は福音を恥とは思いません」パウロはイエス・キリストの十字架と復活という福音を恥とは思わないと語り始めました。これは「福音を誇りとします」と言うよりも強い表現方法であり、「福音を何よりも、何にも増して誇りとしています」という強い告白に他なりません。パウロはなぜそのように告白しているのでしょうか？それは「福音は救いを得させる神の力」であるからです。パウロはこの福音が自らに、そして人々に救いを得させる神の力であるから、だから福音を何よりも誇りとして告白しているのです。ここで“力”と訳される言語「デュナミス」は英語のダイナマイト、ダイナモ、ダイナミック語源です。パウロは、救いを得させる福音は生きて働く神様のとてつもない力であると説明したのです。「私は福音を何よりも誇りとします」なぜなら「福音は生きて働く神様のとてつもない力です」と、パウロはなぜ告白し得たのでしょうか？それはパウロがこの神様のとてつもない力を体験したからに他なりません。かつて、パウロは福音を憎んでいました。福音を軽蔑し、恥ずかしいものであるとして迫害していたのです。しかし主なる神様はそのとてつもない力を表してパウロに救いを得させてくださいました。非道なほどの迫害者パウロにイエス様ご自身が現れて救いを与えてくださいました。パウロは自らの体験を通して、ローマ諸教会のキリスト者たちに今、告白しているのです。「私は福音を何よりも誇りとします。なぜなら福音は私に救いを得させる神様の大いなる力だからです」と。

ただ、パウロはv16でもう一つの大変重要なことをも語っています。【福音は、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、信じるすべての人にとって、救いを得させる神の力です】パウロが度々用いる表現です。国や民族、宗教を超えて何の区別も差別もなくすべての人に、、、なのですが、単に“すべての人に”ではなく“信じるすべての人に”福音は救いを得させるとパウロは教えているのです。この“信じるすべての人”がとても重要であることを、続く17節で“なぜなら”と更に詳しく説明するのです。

◆ 神の義

パウロは17節で二つのことを説明しています。一つ目は【なぜなら、福音のうちには神の義が啓示されている】ということです。ここで最も注視しなければならないのは「神の義」です。私たちは有名なイエス様の御言葉を知っています。そして賛美しています。【だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい(マタイ6:33)】では「神の義」とは何でしょうか？聖書の「義、正義、righteousness」は私たちが抱く道徳的な言葉ではありません。聖書に記されている「義」には、旧約時代からイスラエル人が持つ概念が存在します。それは一般道徳的なものではなく、法的特質を持っています。私たちはよく善悪という言葉で道徳的な意味において捉えがちですが、イスラエル人は常に裁判官の前に立っているかのごとく捉えていました。「義」とは「正しい」ことを意味し、「悪」は「間違っていることを意味します。」つまり「義」とは常に正しいということであり、全く間違いがないということです。「神の義」とは神様は常に正しい、終始一貫して正しいお方であるという

意味です。そしてもう一つの側面があります。「神の義」は関係性も含まれた言葉なのです。すなわち神との正しい関係という意味をも持つ言葉です。つまり【福音のうちには神の義が啓示されている】とは、「イエス・キリストの十字架と復活のうちに神様の正しさ、そして神様との正しい関係が現されている」とパウロは説明しているのです。イエス様の十字架と復活は神様の愛です。その神様の愛のうちに神様の正しさ、そして神様との正しい関係が現されているのです。

◆ 信仰によって

それでは、私たち人間が神の義すなわち神様の正しさに近づくにはどうしたら良いのでしょうか？どのようにして神様との正しい関係を回復できるのでしょうか？17節パウロはもう一つ重要なことを説明しています。【その義は、信仰に始まり信仰に進ませるからです】「信仰に始まり信仰に進ませる」と訳されるギリシヤ語原文を直訳すると「信仰から信仰へ」という単純な文章です。しかしこの表現は“ただ信仰による”という強調法でもあります。すなわち「その義はただ信仰によるのです」という意味なのです。パウロは、イエス様の十字架と復活という福音の中に、神の義すなわち神様との正しい関係が現されており、それはただ信仰によってのみもたらされる救いであるとローマ教会に書き送っているのです。パウロが17節で引用した【義人は信仰によって生きる】は旧約聖書ハバクク書2章4節【見よ。心のまっすぐでない者は心高ぶる。しかし、正しい人はその信仰によって生きる】の引用です。パウロは預言者ハバククの言葉を引用することで福音と信仰の本質を語ったのです。「イエス・キリストの十字架と復活を信じる信仰によって義とされた者(正しいとされた者)が救いを得て生きる」と。

◆ まとめ・お勧め

16節「福音は信じるすべての人に救いを得させる神の力です」これがローマ書を貫く主題テーマとなる御言葉と言えるでしょう。パウロはこの主題を17節で具体的に説明したのです。イエス・キリストの十字架と復活という福音の中に私たち罪人と神様との正しい関係の回復が表されているのであり、ただただイエス様の十字架と復活を信じる信仰によって私たちは義と認められて救われると。

中世における当時、腐敗していたキリスト教会においてルターはこのパウロによる御言葉に出会った時、「私たち罪人はただ信仰によってのみ義と認められる」という“信仰義認”を確信したのです。

私たちはどの様な努力、善行、はたまた苦行によっても神様との正しい関係を回復することは出来ません。なぜならば私たちは罪人であって、義なる者(常に正しい者)ではないからです。しかしイエス様の十字架と復活は私たちの罪を背負う贖いでありました。私たち罪人は、ただただこの福音を信じる信仰によってのみ義なる者と認められて救いを得ることが出来るのです。何という幸い、恵みでしょうか。かつて恐ろしいほどの迫害者であったパウロは神様の憐れみによって、とてつもなく大きな力であるこの福音によって救いに導かれ、伝道者として召されました。ただただ、イエス様の十字架と復活を信じる信仰によってのみ、罪人が義と認められるという恵みの体験に生きるパウロは、ローマ教会のキリスト者たちに、先ずこの恵みに立つべきであると伝えているのです。

今朝私たちも、イエス・キリストの福音によって与えられたこの恵みを噛み締めながら聖餐に預かりたいのです。